

社会福祉・医療事業団助成事業

子育て支援「休日・放課後における障害児の地域活動促進事業」

「紀北養護学校ふれ愛ボランティアセミナー」

和歌山県立紀北養護学校育成会

1 はじめに

完全学校週五日制が今春よりスタートし、障害児が放課後や休日をどのように過ごすのかということが全国的に大きな課題となっている。紀北養護学校育成会では、学校との連携を深め、試行錯誤を繰り返しながら学校外活動を展開してきた。本校では学校外活動がはじまって9年が経過したが、やればやるほど課題が見え、保護者である私達は限界を感じ始めていた。そんな時、全国知的障害養護学校PTA連合会から子育て支援事業“障害児の地域活動におけるボランティア養成事業”のお話があり、平成12年度にパイロット校として依頼を受けることになった。そこで育成会では、地域の皆様方に障害児者への理解を深め、支援の方法を知っていただくために、学校と協力する中で「学校週五日制活動」とタイアップした参加体験型のボランティア養成講座を計画した。また、これらの事業をはじめること、ボランティアの輪を広げるということだけでなく、保護者一人一人の意識の向上と障害児者の地域活動を充実させるという目標も掲げた。

本校育成会では、ボランティア育成事業の対象として、今後、長期にわたり本校児童生徒を含めた障害児者が地域の中で生活を送っていくにあたりサポート体制を築いていくことができるよう、同年代の高校生を対象にボランティア育成事業を行うことにした。また、今まで学校に頼りすぎていたことを反省し、このボランティア養成事業にかかる企画運営等については、保護者主体で取り組みを進めてきた。

今年度、全国知的障害養護学校PTA連合会から子育て支援事業“休日・放課後における障害児の地域活動促進事業”におけるパイロット校として、ボランティアセミナー(近畿ブロック)開催の依頼があり受ける運びとなった。ここに、平成14年10月26日(土)に開催されたボランティアセミナー(近畿ブロック)の概要及び研究協議会で情報交流された内容をまとめ、今後の活動推進に向けた情報発信を行いたいと考える。

2 ボランティアセミナーの概要(実施要項は、別紙資料1参照)

(1)趣旨

完全学校週五日制の実施に伴い、休日や放課後における養護学校の児童生徒の地域活動が課題となっている。そこで、児童生徒の地域生活を充実するために本校が実施している「高校生ボランティア養成講座」の取り組みを近畿ブロックの全養護学校のPTA・教職員を対象に紹介し、併せて、障害児の地域活動を促進するために学校相互の交流を深める。

(2)実施日時

平成14年10月26日(土)

(午前)会場:和歌山県立紀北養護学校

「学校週五日制の取り組みとボランティア活動の見学等」

(午後)会場:和歌山市東部コミュニティセンター 「ボランティアセミナー協議会」

日 程

9:30	10:00	10:00	11:15	11:15 12:30	12:30	15:00
受 付	高校生ボランティア 活動見学 等		移 動 及び 昼 食	ボランティアセミナー 協 議 会		
会 場		紀北養護学校		会 場 東部コミュニティーセンター		

(3)参加者

近畿ブロックの全養護学校のPTA・教職員

計77名

(4)参加校

知的障害養護学校 15校 高等学校 1校 計 16校

京都府	京都市立東養護学校
兵庫県	兵庫県立出石養護学校
大阪府	大阪府立寝屋川養護学校 大阪府立守口養護学校 大阪府立東大阪養護学校 大阪府立堺養護学校 大阪府立豊中養護学校
和歌山県	和歌山県立きのかわ養護学校 和歌山県立たちばな養護学校 和歌山大学教育学部附属養護学校 和歌山県立みくまの養護学校 和歌山県立紀伊コスモス養護学校 和歌山県立南紀養護学校 和歌山県立はまゆう養護学校 和歌山県立紀北養護学校 和歌山県立大成高校

3 実施内容

別紙資料2「日程表」のとおり、セミナーは、本校学校週五日制活動(「わくわくウィークエンドクラブ」と呼称)に参加している「高校生ボランティアの活動見学」と「ボランティアセミナー研究協議会」という大きな柱を設けて実施するとともに、これらの企画運営等の多くは、本校育成会が主体となり行われた。

(1)高校生ボランティアの活動見学(午前の部)

ボランティア養成講座の年間計画では、この日、本校を会場に「陶芸教室」「パソコン教室」「和太鼓教室」「フラワーアレンジメント教室」「書道教室」が行われた。事前打ち合わせを終えた高校生ボランティアは、これらの取り組みのいずれかに参加し、障害のある子ども達と関わりをもった。セミナー参加者には、高校生ボランティアと障害のある子ども達の関わりや、橋渡し役として介在する教職員、保護者の動き等を中心に参観していただいた。

なお、本校ボランティア養成講座に参加している高校生は、学校週五日制活動が始まる30分前近くに集合し、事前打ち合わせを行っている(毎回実施)。この事前打ち合わせは、「ボランティアの手引き」「連絡カード(お子さまの様子)」等を活用し、自らが関わる障害のある子どもについて理解や認識を深める機会としている。

(2)ボランティアセミナー研究協議会(意見発表)

午後の協議会は、本校育成会長による【本校育成会活動とボランティア養成講座の取り組みについて ～児童生徒の地域生活を充実するために～】というテーマでの意見発表からスタートした。その内容は、高校生を対象としたボランティア養成講座(平成12年度)の立ち上げから現在に至るまでの経緯とこれまでを振り返っての成果と課題についてであった。

続いて、高校生ボランティア(和歌山県立大成高校、和歌山県立星林高校)2名の体験発表では、本校の養成講座に参加したきっかけや、子ども達との出会いを積み重ねることで芽生えてきた自意識の変化等、将来の夢を交えながらの発表があった。2人の発表の中には共通して、子ども達との出会いに対する最初の一步に「不安」「緊張」が伴ったことが紹介された。しかし、ボランティア活動を通じた出会いの積み重ねがこうした不安や緊張を取り除き、「楽しさの共感」という新しい視点を持ちえたことも報告された。

さらに、紀北養護学校が実施しているボランティア養成講座の取り組みを参考にし、地域・学校の特色を生かして始まった、紀伊コスモス養護学校育友会「高校生ボランティア養成講座」の取り組み

について、同校育友会長より発表があった。この中では、平成14年度同校ボランティア養成講座開会式で高校生に対し「私たちが子ども達に残したいものは、お金でも物でもありません。地域で同じ世代を生きるあなた方のような若い力と感性です」という保護者の願いを伝えられたことが紹介された。

(3) ボランティアセミナー研究協議会(研究協議・情報交換)

上記発表を終えた後、研究協議・情報交換会を行った。研究協議では、ボランティア養成講座を開催しての「有効性」や「配慮」「成果と課題」といった観点から意見交流、討議が行われた。そこで交わされた意見等についてまとめ、紹介したい。

【有効性】

- 障害のある子ども達を支援するためのボランティア組織をつくるには、保護者が安心して自分の子どもをまかせられる力量を持ったボランティアの育成が必要である。そのためにも、「ボランティア養成講座」が果たす役割は大きい。
- 校区の高校生を対象に講座を開くことは、将来地域で中心的なボランティアとして活躍することへの展望を深めるとともに、障害のある子ども達が地域で豊かに生活していくためにも意義のあることである。また、高等学校等との連携は、地域に根ざした教育にもつながり、こうした交流教育は、より一層地域活動を促進することになる。
- 障害のある子ども達にとっては、同年代の子どもとのかかわりの中で、人と対応する力等を身につけることができる。そして、何よりも、表情が明るく笑顔がよく見られるようになった。

【配慮】

- ボランティアの募集は、自校の校区の高等学校に案内を配布して公募という形が定着してきている。しかし、高校生ボランティアの人数確保は、クラブ活動等により休日も忙しく、困難な時もあった。
- 子ども達の障害や個性等に対応し支援できるボランティアの育成には、特技等を含めた高校生ボランティア個々の個性をつかみ、ペアリングを行っていくことが大切である。また、出会いの当初は、教師や保護者が同行し、接し方や気持ちのくみ取り方等への支援を適切に行っていくことも必要である。
- ボランティアである高校生自身が障害のある子ども達の個性を捉え、支援の方法を探っていくためには、関わりの継続性が求められる。
- 連絡カードの活用等、ボランティアと保護者との間で今日の出来事等への共通認識をもてる工夫が必要である。
- 障害のある子どもの日常生活や身辺処理への理解や認識を深められる工夫が必要である(ボランティアマニュアルの作成)

【成果と課題】

- 高校生と関わる障害のある子ども達には、同年代の友達を意識するようになる等、これまで関わりを深めてきた大人に見せる顔とは異なる表情をたくさん見せるようになってきた。
- ボランティアの継続は、高校生自身が障害児者に対する机上の理解を深めるだけでなく、直面する具体的な場面での支援の方法を知り得ていくことにつながった。

- ボランティア養成講座に参加した高校生の多くは、障害児者への理解や認識を深めただけでなく、自分の優しさを発見する等、自分自身を見つめなおす機会にもなった。
- 高校生ボランティア自身から学校週五日制行事のいろいろな催し物の企画計画の要望がでてきている。ボランティア自身が受身的な立場から主体的に行動していこうとする姿が見えだしている。このことを、学校週五日制行事の運営会議(ボランティアを含め)にどう反映し、組織していくのが課題となる。
- 高校生自身がボランティアを体験していく中で、自分の進路(福祉に関わる職種)選択につながっていくケースも増えている。このことは、将来、障害児の地域活動を活発にし、豊かな生活の充実に役立っていくと確信している。

また、学校週五日制活動とボランティア育成の試みに関する情報交換では、近畿ブロックの養護学校を中心に、ずいぶん多くの養成講座が行われているとの報告がなされた。さらに、ある学校においては、休日等の活動に、市民ボランティアの支援を活用しながら運営しているところもあった。

そして最後に、助言者よりまとめとして、以下の講評がなされた。

- 障害児者が、地域で豊かに暮らせるように、息の長い取り組みにして欲しい。そして、高校生がいずれ親となったとき、障害児者への理解を地域に広げていって欲しい。
- 現時点では、保護者・学校が中心になっているが、障害児者が地域生活を豊かに過ごせるためにボランティアの輪をさらに広げていくことが大切である。

4 終わりに

本校育成会では「新しい自分を発見してみませんか？」をキャッチフレーズに高校生ボランティア募集を行ってきた。その中で、毎年70名近い高校生達が様々な休日活動へ積極的な参加をしてくれた。しかし、今回の近畿ブロックボランティアセミナーでは、こうしたボランティア育成の輪が大きく広がりを見せていることが協議会を通して明らかになった。また、上述してきたように、障害のある子ども達への支援の方法を探る等、ボランティア自身も継続的な関わりの中で力量を高めている。

高校生2名の体験発表から伺えたように、「出会い」という最初の一步をどう築くかがとても大切になる。そのためにも、今後さらに、障害のある子ども達とボランティアのニーズをうまく組み合わせ、パートナーとして実際に活動できる機会を充実させるとともに、地域に根ざしたボランティアの輪を広げていきたい。その上で、研究協議にて紹介されたボランティア養成に係る「有効性」「配慮」「成果と課題」については、具体的な実践の中から出てきたポイントとして、広く参考にしていただきたい。

最後に、本校の「ボランティア養成講座」の目指すものは、障害のある児童生徒の自立と社会参加を生涯にわたって支援するボランティアの育成にある。障害児者が地域で豊かに生活を送っていくためにも、高校生ボランティアの一人一人が各地域のボランティアの一員として、近い将来、活躍してくれることを期待している。

社会福祉・医療事業団助成事業
 子育て支援事業「休日・放課後における障害児の地域活動促進事業」
 (児童生徒の地域生活を充実するためのセミナー)

紀北養護学校ふれ愛ボランティアセミナーの開催要項

全国知的障害養護学校PTA連合会
 会長 中村文子
 近畿知的障害養護学校PTA連合会
 会長 吉川雄正
 和歌山県立紀北養護学校育成会
 育成会長 前口明美

- 1 目的 完全学校週5日制の実施に伴い、休日や放課後における養護学校の児童生徒の地域活動が課題となっている。そこで、児童生徒の地域生活を充実するために本校が実施している「高校生ボランティア養成講座」の取り組みを近畿ブロックの全養護学校のPTA・教職員を対象に紹介し、併せて、障害児の地域活動を促進するために学校相互の交流を深める。
- 2 主催 和歌山県立紀北養護学校育成会
 近畿知的障害養護学校PTA連合会
 全国知的障害養護学校PTA連合会
- 3 期日 平成14年10月26日(土)
- 4 会場 (午前) 和歌山県立紀北養護学校Tel073-479-1356
 「学校週5日制の取り組みとボランティア活動の見学等」
 (午後) 和歌山市東部コミュニティセンターTel073-475-0020
 「ボランティアセミナー協議会」
- 5 日程
 平成14年10月26日(土) 10:00~15:00

9:30	10:00	10:00	11:15	11:15	12:30	12:30	15:00
受付		高校生ボランティア活動 見学等		移動 及び 昼食		ボランティアセミナー 協議会	
会場 紀北養護学校				会場 東部コミュニティーセンター			

- 6 参加者 近畿ブロックの知的障害全養護学校のPTA・教職員
- 7 申込 9月30日(月)までに、申込用紙を郵送(FAXは可)してください。
 宛名 ㊟640-0332
 和歌山市冬野227 和歌山県立紀北養護学校
 電話 073-479-1356
 FAX 073-479-2677
- 8 その他
 - ・駐車場が、大変少ないため自家用車での来校はお控え下さい。当日、JR和歌山駅東口より(9:30発)送迎バス(利用料500円)が出ますのでご希望される方は参加申し込み時に同時にお申し込み下さい。
 - ・会場周辺には昼食をとれる施設がありませんので、当日、お弁当(1,000円)が必要な方は、参加申し込み時に同時にお申し込みください。

日 程 表

時 間	日 程
9:30～10:00	受 付 和歌山県立紀北養護学校
10:00～11:15	高校生ボランティア活動見学 和歌山県立紀北養護学校
11:15～11:30	移 動 東部コミュニティーセンター
11:30～12:30	昼食・休憩 東部コミュニティー センター 2F大会議室
12:30～15:00	<p>ボランティアセミナー協議会 東部コミュニティーセンター 2F多目的ホール</p> <p>あいさつ 和歌山県立紀北養護学校 校長 和歌山県立紀北養護学校 育成会長</p> <p>諸連絡 事務局</p> <p>発 表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成会活動と高校生ボランティア養成講座の取り組みについて 和歌山県立紀北養護学校 育成会長 ・体験発表 ボランティアに参加して 高校生ボランティア 2名 和歌山県立大成高等学校 中尾 愛 和歌山県立星林高等学校 平 朋美 ・紀伊コスモス養護学校での取り組み 和歌山県立紀伊コスモス養護学校 育友会長 <p>研 究 協 議 ・ 情 報 交 換</p> <p>あいさつ 和歌山県立紀北養護学校 育成会副会長</p>
15:00	終 了